

平成29年度

芦原温泉上水道財産区水道事業会計
決算審査意見書

あわらし市監査委員

あ 監 委 第 6 5 号

平成30年 8 月 15 日

あわら市長 佐々木 康男 様

あわら市監査委員 近 藤 茂

あわら市監査委員 向 山 信 博

平成29年度芦原温泉上水道財産区水道事業会計決算の審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により、審査に付された平成29年度芦原温泉上水道財産区水道事業会計決算について審査したので、その結果について次のとおり意見書を提出する。

平成29年度芦原温泉上水道財産区水道事業会計歳入歳出決算審査意見

第1 審査の対象

平成29年度芦原温泉上水道財産区水道事業会計決算

第2 審査の期間

平成30年7月19日

第3 審査の方法

審査に当たっては、決算報告書及びその附属書類が、関係法令に準拠して作成され企業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているか、予算執行及び会計処理が適正であるかなどに主眼を置き、関係書類の照合確認を行うとともに、関係部局から決算についての説明を聴取するなどの方法により実施した。

第4 審査の結果

審査に付された各会計の決算報告書及びその附属書類は、いずれも関係法令に準拠して作成され、その計数は関係書類と符合し経営成績及び財政状態を適正に表示しており、また、予算執行及び会計処理は総じて適正であると認められた。

1 業務実績について

給水状況は前年度に比べて、給水戸数が6戸増加し2,161戸となり、給水人口は総人口が減少しているのに伴って40人減少し、2,857人となっている。

年間総配水量は39,885^{m³} (3.1%) 減少し122万6,973^{m³}となり、年間有収水量も、35,493^{m³} (3.0%) 減少し115万6,981^{m³}となった。有収率は前年度に比べ0.2ポイント増加し、94.3%となった。

なお、主な業務実績は次表のとおりである。

主 な 業 務 実 績

区 分		平成28年度	平成29年度	増減値	増減率
普及 状況	総 人 口 (A)	28,641 人	28,422 人	△ 219 人	△ 0.8 %
	給 水 戸 数	2,155 戸	2,161 戸	6 戸	0.3 %
	給 水 人 口 (B)	2,897 人	2,857 人	△ 40 人	△ 1.4 %
	普 及 率	100.0 %	100.0 %	0 ポイント	0.0 %
年間総配水量 (C)		1,266,858 ^{m³}	1,226,973 ^{m³}	△ 39,885 ^{m³}	△ 3.1 %
年間有収水量 (D)		1,192,474 ^{m³}	1,156,981 ^{m³}	△ 35,493 ^{m³}	△ 3.0 %
一日配水能力 (E)		14,150 ^{m³}	14,260 ^{m³}	110 ^{m³}	0.8 %
一日最大配水量 (F)		4,712 ^{m³}	5,642 ^{m³}	930 ^{m³}	19.7 %
一日平均配水量 (G)		3,471 ^{m³}	3,362 ^{m³}	△ 109 ^{m³}	△ 3.1 %
導送配水管延長 (H)		32,034 m	32,164 m	130 m	0.4 %
有 収 率 (D/C)		94.1 %	94.3 %	0.2 ポイント	0.2 %
施 設 利 用 率 (G/E)		24.5 %	23.6 %	0.9 ポイント	3.7 %
負 荷 率 (G/F)		73.7 %	59.6 %	△ 14.1 ポイント	△ 19.1 %
最 大 稼 働 率 (F/E)		33.3 %	39.6 %	6.3 ポイント	18.8 %
配水管使用効率 (C/H)		39.5 %	38.1 %	△ 1.4 ポイント	△ 3.5 %

2 予算執行について

(1) 収益的収入

29年度の収益的収入は、予算額1億7,469万5千円に対し決算額は1億7,505万9千円で、36万4千円(0.2%)上回っている。

収益的収入予算決算対照表

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	増減額	増減率
1 水道事業収益	174,695	175,059	364	0.2
1 営業収益	167,809	168,176	367	0.2
2 営業外収益	6,886	6,883	△ 3	0.0

(注) 決算額には、仮受消費税及び地方消費税 1,245万5千円を含む。

(2) 収益的支出

29年度の収益的支出は、予算額1億7,285万2千円に対し決算額は1億7,006万円で、執行率98.4%となっており、279万2千円の不用額を生じている。

収益的支出予算決算対照表

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	不用額	執行率
1 水道事業費用	172,852	170,060	2,792	98.4
1 営業費用	168,639	165,852	2,787	98.3
2 営業外費用	4,138	4,138	0	100.0
3 特別損失	75	70	5	92.8
4 予備費	0	0	0	0.0

(注) 決算額には、仮払消費税及び地方消費税693万7千円を含む。

(3) 資本的収入

29年度の資本的収入は、予算額77万3千円 に対し決算額は63万9千円で、13万4千円(17.4%)の不足となっている。

資本的収入予算決算対照表

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	増減額	増減率
1 資本的収入	773	639	△ 134	△ 17.4
1 工事負担金	273	142	△ 131	△ 48.1
2 他会計負担金	500	497	△ 3	△ 0.6

(注) 決算額は、仮受消費税及び地方消費税 1万1千円を含む。

(4) 資本的支出

29年度の資本的支出は、予算額3,019万3千円に対し決算額は2,696万7千円、執行率89.3%となっており、322万6千円の不用額を生じている。

資本的支出予算決算対照表

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	繰越額	不用額	執行率
1 資本的支出	30,193	26,967	0	3,226	89.3
1 建設改良費	30,193	26,967	0	3,226	89.3
(1) 取水設備改良費	0	0	0	0	0.0
(2) 送水設備改良費	1,000	0	0	1,000	0.0
(3) 配水設備改良費	17,945	17,828	0	117	99.3
(4) 営業設備費	0	0	0	0	100.0
(5) 事務費	11,248	9,139	0	2,109	81.3

(注) 決算額は、仮受消費税及び地方消費税 132万4千円を含む。

なお、資本的収支において、資本的収入額が資本的支出額に不足する額2,632万8千円は、当年度分損益勘定留保資金2,501万4千円、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額131万4千円で補てんしている。

3 経営成績について

(1) 経営成績の概況

29年度の損益計算書を前年度と比較すると次表のとおりである。

損益計算書前年度比較表

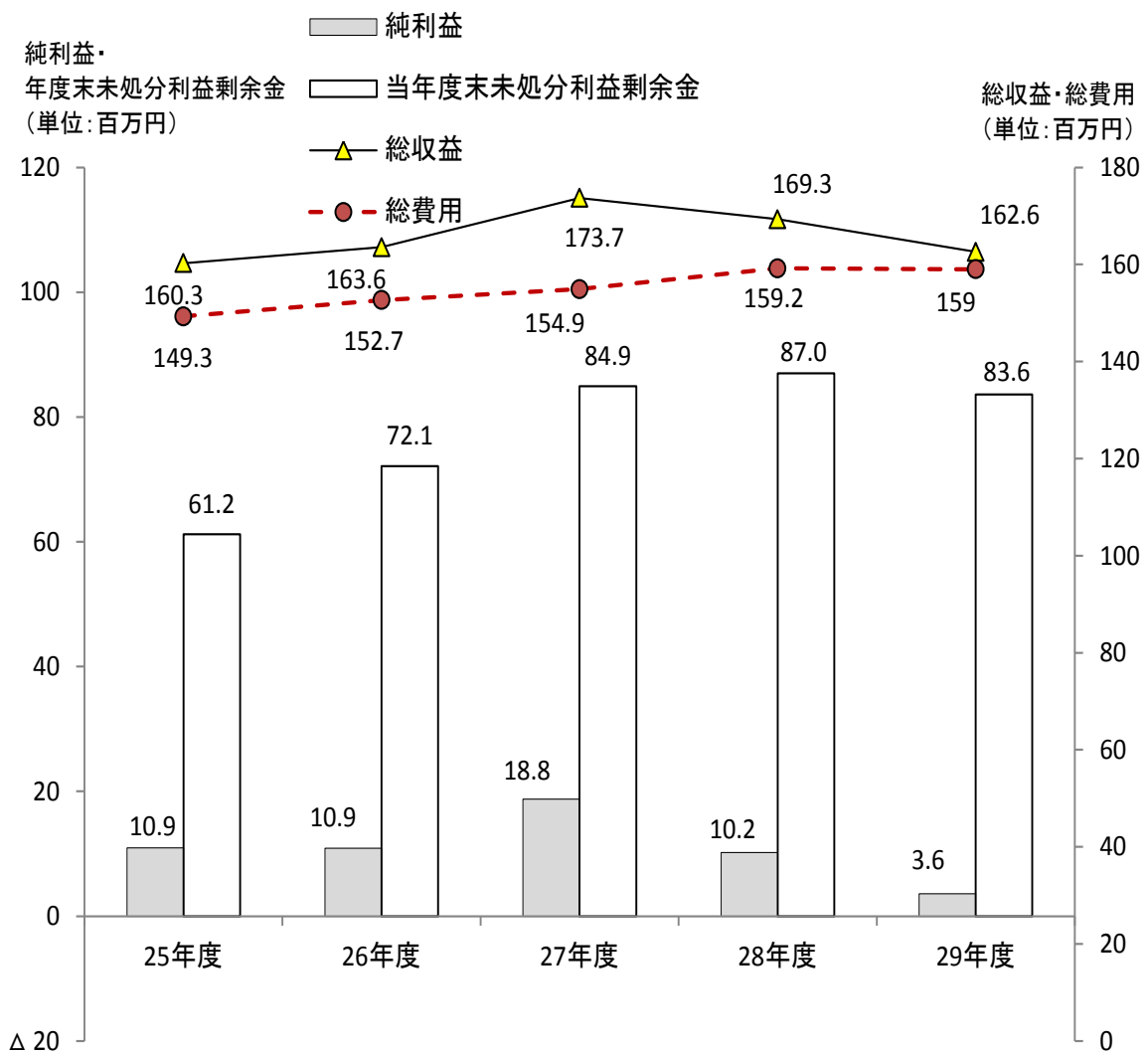
(単位：千円、%)

区 分	平成28年度	平成29年度	増減額	増減率
営業収益	162,045	155,721	△ 6,323	△ 3.9
給水収益	159,835	154,487	△ 5,348	△ 3.3
受託工事収益	255	124	△ 131	△ 51.5
その他営業収益	1,955	1,111	△ 844	△ 43.2
営業費用	159,157	158,920	△ 237	△ 0.1
原水及び浄水費	79,764	79,804	40	0.1
配水及び給水費	5,111	5,189	78	1.5
受託工事費	128	66	△ 61	△ 48.1
総 係 費	34,706	32,094	△ 2,612	△ 7.5
減価償却費	38,717	41,074	2,357	6.1
資産減耗費	185	34	△ 151	△ 81.5
その他営業費用	546	659	113	20.7
営業利益	2,888	△ 3,199	△ 6,087	△ 210.8
営業外収益	7,303	6,883	△ 420	△ 5.8
受取利息及び配当金	122	45	△ 77	△ 62.9
長期前受金戻入	6,992	6,835	△ 157	△ 2.2
雑 収 益	190	3	△ 187	△ 98.5
営業外費用	0	0	0	0.0
雑 支 出	0	0	0	0.0
経常利益	10,191	3,684	△ 6,507	△ 63.9
特別損失	9	64	56	637.6
過年度損益修正損	9	64	56	637.6
その他特別損失	0	0	0	0.0
当年度純利益	10,182	3,619	△ 6,563	△ 64.5
前年度繰越利益剰余金	76,813	80,004	3,190	4.2
当年度未処分利益剰余金	86,995	83,623	△ 3,372	△ 3.9

営業収益は、前年度に比べて 632 万 3 千円 (3.9%) 減少し、1 億 5,572 万 1 千円となった。これは主に、給水収益が 534 万 8 千円 (3.3%) 減少したことによるものである。

営業費用については、1億5,892万円であり、23万7千円(0.1%)の減となった。
 また、営業収益から営業費用を控除した営業利益は△319万9千円となり、前年度に比べて608万7千円(210.8%)減少している。
 営業外収益は、前年度に比べて42万円(5.8%)減少し、688万3千円となった。
 営業利益に営業外収益を加算した経常利益は、368万4千円の黒字となった。
 特別損失は、前年度に比べて5万6千円(637.6%)増加し、6万4千円となった。
 経常利益から特別損失を控除した当年度純利益は361万9千円の黒字となったが、前年度に比べて656万3千円(64.5%)減少した。
 なお、当年度末処分利益剰余金は337万2千円(3.9%)減少し、8,362万3千円となった。

過去5年間の収益費用の推移は、次のとおりである。



(2) 性質別費用

特別損失以外の費用を性質別に前年度と比較すると次表のとおりである。

費用性質別前年度比較表

(単位：千円、%)

区 分	平成28年度	平成29年度	増減額	増減率
人 件 費	27,367	25,388	△ 1,979	△ 7.2
備 品 消 耗 品 費	479	997	518	108.2
委 託 料	5,092	5,098	6	0.1
賃 借 料	1,352	1,345	△ 7	△ 0.5
修 繕 費	3,889	4,033	144	3.7
動 力 費	6,003	5,631	△ 372	△ 6.2
補 償 費	1,886	1,892	6	0.3
報 償 費	460	468	8	1.8
ペットボトル販売原価	546	659	113	20.7
受 水 費	67,616	67,616	0	0.0
有形固定資産減価償却費	38,717	41,074	2,357	6.1
そ の 他	5,749	4,719	△ 1,030	△ 17.9
合 計	159,157	158,920	△ 237	△ 0.1

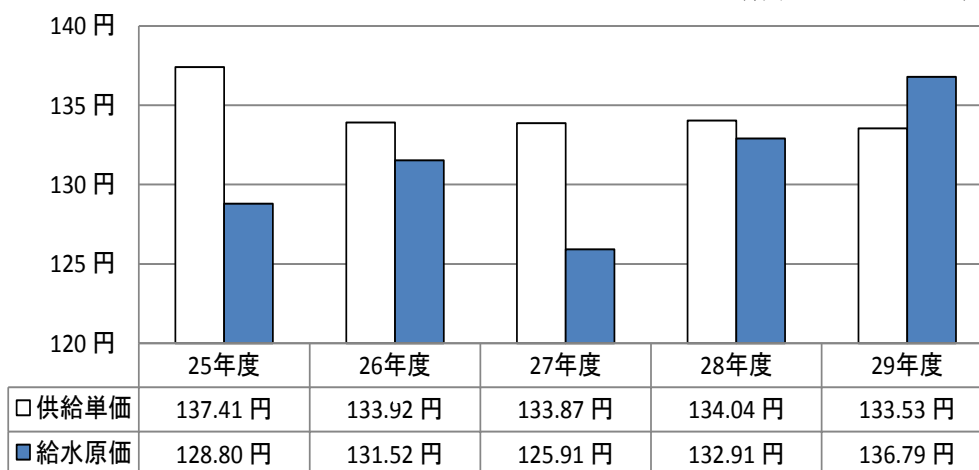
費用合計は、23万7千円（0.1%）減少し、1億5,892万円となった。

費用を性質別に見ると、前年度に比べ、人件費が197万9千円（7.2%）減少、有形固定資産減価償却費が235万7千円（6.1%）増加したことが主な要因である。

(3) 供給単価及び給水原価

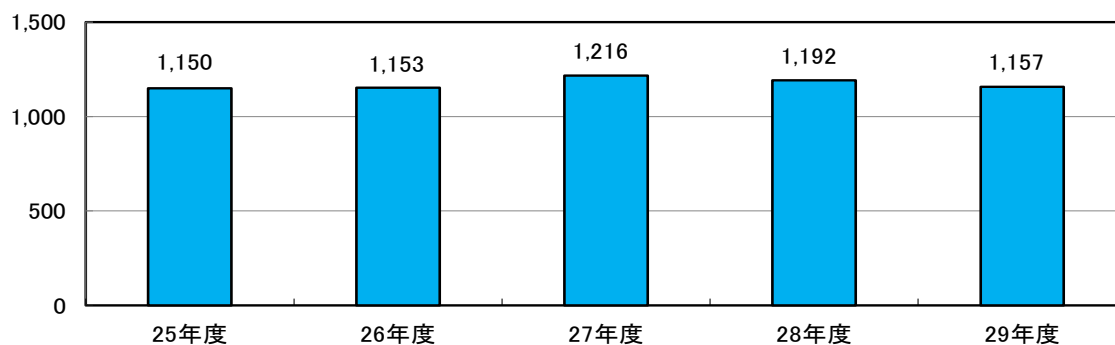
供給単価及び給水原価の推移は次表のとおりである。

供給単価及び給水原価の推移 (有収水量1m³当たり)



(4) 有収水量の推移

(単位:千 m^3) 有 収 水 量 の 推 移



有収水量については、前年度に比べて 35,493 m^3 (3.0%) 減少し、115万6,981 m^3 となり、前年度を下回っている。

4 財政状態について

当年度の貸借対照表を前年度と比較すると次表のとおりである。

貸借対照表前年度比較

(単位:千円、%)

区 分	平成28年度	平成29年度	増減額	増減率
固 定 資 産	1,091,085	1,075,620	△ 15,465	△ 1.4
有形固定資産	1,091,085	1,075,620	△ 15,465	△ 1.4
土 地	145,535	145,535	0	0.0
建 物	57,466	55,571	△ 1,895	△ 3.3
構 築 物	838,273	830,754	△ 7,519	△ 0.9
機 械 及 び 運 搬 具	34,833	30,787	△ 4,046	△ 11.6
工 具 器 具 及 び 備 品	1,798	1,443	△ 355	△ 19.7
建 設 仮 勘 定	13,180	11,530	△ 1,650	△ 12.5
流 動 資 産	230,158	244,483	14,325	6.2
現 金 預 金	214,188	229,485	15,297	7.1
未 収 金	15,314	14,390	△ 923	△ 6.0
貯 蔵 品	656	609	△ 48	△ 7.3
資 産 合 計	1,321,243	1,320,103	△ 1,140	△ 0.1

(単位：千円、%)

区 分	平成28年度	平成29年度	増減額	増減率
固定負債	5,685	6,242	557	9.8
引当金	5,685	6,242	557	9.8
退職給付引当金	1,671	2,228	557	33.3
修繕引当金	4,014	4,014	0	0.0
流動負債	26,568	27,459	891	3.4
引当金	1,665	1,637	△ 29	△ 1.7
賞与引当金	1,400	1,381	△ 19	△ 1.4
法定福利費引当金	265	255	△ 10	△ 3.6
未払金	21,142	20,563	△ 579	△ 2.7
前受金	178	186	9	4.9
預り金	3,583	5,072	1,490	41.6
繰延収益	116,601	110,263	△ 6,338	△ 5.4
長期前受金	338,989	339,486	497	0.1
収益化累計額	△ 222,388	△ 229,223	△ 6,835	3.1
負債合計	148,854	143,964	△ 4,890	△ 3.3
資本金	707,616	707,616	0	0.0
自己資本金	707,616	707,616	0	0.0
補てん財源処分組入額	0	0	0	0.0
剰余金	464,773	468,524	3,751	0.8
資本剰余金	40,918	41,049	131	0.3
工事負担金	38,048	38,179	131	0.3
他会計負担金	2,870	2,870	0	0.0
利益剰余金	423,855	427,475	3,619	0.9
利益積立金	24,121	24,121	0	0.0
建設改良積立金	88,207	88,207	0	0.0
当年度未処分利益剰余金	80,004	83,623	3,619	4.5
処分済利益剰余金収益化移行処理額	231,523	231,523	0	0.0
資本合計	1,172,389	1,176,140	3,751	0.3
負債・資本合計	1,321,243	1,320,103	△ 1,140	△ 0.1

(1) 資産

当年度の資産合計は、前年度に比べて114万円（0.1%）減少し、13億2,010万3千円となった。

固定資産は、前年度に比べて1,546万5千円（1.4%）減少し、10億7,562万円となった。

流動資産は、前年度に比べて1,432万5千円（6.2%）増加し、2億4,448万3千円となった。

なお、水道料金の収入未済額は1,439万円で収納率は92.1%となっている。

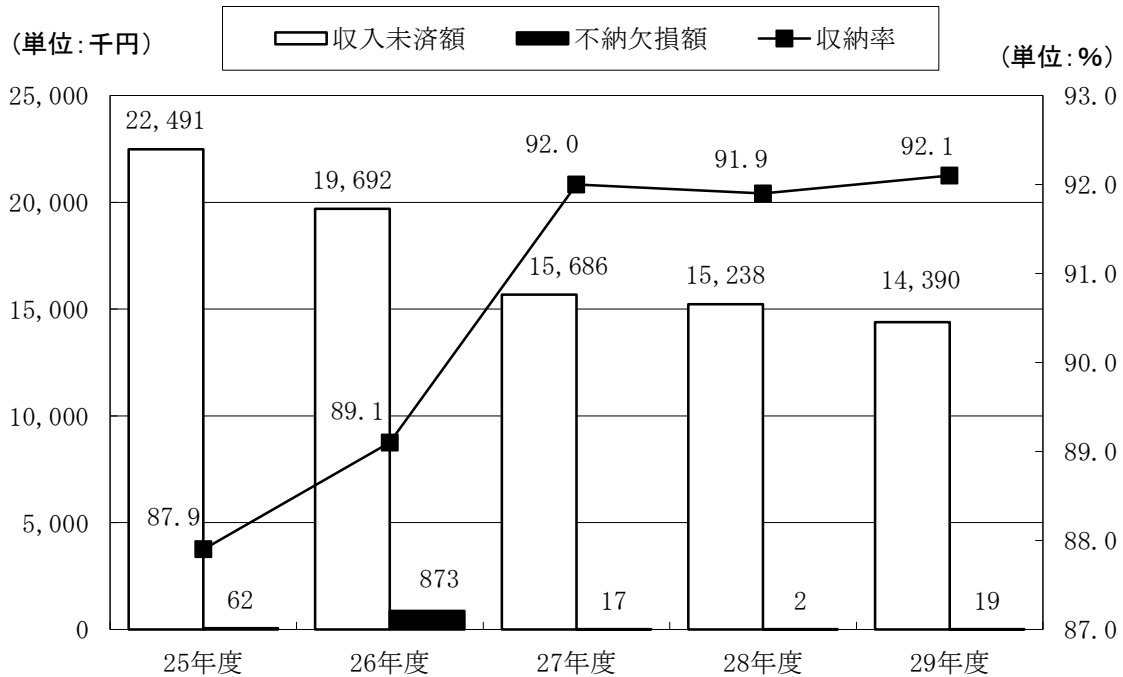
水道料金に係る収納状況の内訳は次表のとおりである。

水道料金収納状況表

（単位：千円、%）

区 分		調定額	収入済額	不納 欠損額	収入未済額	収納率
29	現年度	166,846	152,504	0	14,342	91.4
	過年度	15,188	15,120	19	48	99.6
	計	182,034	167,624	19	14,390	92.1
28	現年度	172,622	157,405	0	15,217	91.2
	過年度	15,686	15,663	2	22	99.8
	計	188,308	173,068	2	15,238	91.9
比 較	現年度	△ 5,776	△ 4,901	0	△ 875	-
	過年度	△ 498	△ 542	17	27	-
	計	△ 6,275	△ 5,444	17	△ 848	-

収入未済額・不能欠損と収納率の推移



(2) 負債・資本

当年度の負債合計は前年度に比べて489万円（3.3%）減少し、1億4,396万4千円となった。固定負債は、前年度と比べて55万7千円（9.8%）増加し、624万2千円となった。

流動負債は、前年度に比べて89万1千円（3.4%）増加し、2,745万9千円となった。これは主に、滞納対策として入居の際に徴収する預り金が149万円（41.6%）増加したことなどによるものである。

資本金は、7億761万6千円と前年同額であった。

また剰余金は、375万1千円（0.8%）増加し4億6,852万4千円となった。

その結果、当年度の資本合計は前年度に比べて375万1千円（0.3%）増加し、11億7,614万円となった。

5 審査のまとめ

(1) 決算の総括

当年度は、人口減少による給水人口の減少や、芦原温泉への宿泊客数が2年連続減少したことから有収水量が減少したものである。

その結果、営業収益は前年度に比べて632万3千円（3.9%）減少し1億5,572万1千円となり、当年度純利益は、656万3千円（64.5%）減少し、361万9千円となっている。

また、水道事業を取り巻く環境は、施設の修繕や更新等に係る経費の増加が見込まれ、経営の基本である給水収益についても、人口減少等により増収を見込むのは難しい現状にある。

(2) 審査意見

① 平成24年度の料金改定後は黒字経営となっているが、給水区域内の人口は減少し続けている。今後も給水量の推移を注視しながら、経費の節減に努力されたい。

② 水道事業は、重要なライフラインであるため、安全で良質な水質の確保、安定供給などの基本的な課題に加えて、施設の更新や耐震化など設備投資が必要となっており、今後も財政的に厳しい状況にある。その状況を十分に認識し、今後の需要予測に基づき事務事業の効率化によるコストの削減を推進し、これらの課題への対応を検討されたい。